

## 研究助成実施報告書

助成実施年度	2016 年度（平成 28 年度）
研究課題（タイトル）	近代の公共空間の現代的配置に関する研究
研究者名※	松岡 聡
所属組織※	近畿大学 建築学部 教授
研究種別	研究助成
研究分野	都市計画、都市景観
助成金額	96 万円
概要	<p>近代の公共空間の現代的配置図とアイソメ図を作成し、アーカイブ化を行った。当時の配置計画が、その後の公共建築やオープンスペースの再定義によって十分活かされないものも見られるが、建築の外部エレメント、ファサード性は保持され、古い建築作品を中心とした公共空間が歴史的エリアを形成するためのいくつかのパターンを捉えることができた。</p> <p>アイソメ図の作成では、周辺に建つ中高層建築が周辺環境を大きく変えている場合があり、公共のオープンスペースに視点場を設定した際の景観の問題を考慮する必要性を感じる。</p>
発表論文等	

※研究者名、所属組織は申請当時の名称となります。

( ) は、報告書提出時所属先。

## 1. 研究の目的

(注) 必要なページ数をご使用ください。

本研究は、近代建築遺産の配置研究の中で培った広域配置図作成のための実測、作図の手法を基にし、国内に残る近代建築遺産が長くその場を占め、周辺環境と調整して築いてきた現状を、周辺環境を含めた詳細な配置図として作成し、アーカイブすることを第一の目的とする。その上で、竣工後に行われた改装・改築による対応、周辺建物の呼応、境界線上の工夫、プログラムの変更による対応について、内部資料や衛星写真、ヒアリングによって、周囲との調整の履歴を明らかにし、今後の地域の保存の在り方に役立てることを第二の目的とする。

2010年より現存する国内外の近代建築遺産の配置の研究に取り組んだ。フィールドは、ヨーロッパ、アメリカ、南米であり、図面資料や実測によって近代建築遺産が置かれた現在の状況を詳細に描いた配置図を約80枚作成した。2013年2月に『サイトー建築の配置図集』を出版したのち、国内都市を中心とした広域の配置図の作図も行い、2014年日本建築学会教育賞を受賞している。本研究はすぐれた近代建築遺産の配置研究の中で培った広域配置図作成のための実測、作図、分析の手法を基にしなが、研究代表者が2007年からの都市のコード分析による環境形成手法の自主的研究ならびに、利用と設計の環境による一元化に関する研究」の成果を発展させ、フィールドを国内に残る公共的な近代建築に限定し、周辺との配置における特徴と変遷に着目した実践的研究と位置づけられる。

保存と活用が求められる近代建築遺産において、一般の来館者に直観的で分かりやすい図面やダイアグラムの必要性が求められている。その意味で配置図とガイドマップ、ダイアグラムの境界を超えるような利用を目的とした配置図の開発につながることを副次的な目的とする。

## 2. 研究の経過

(注) 必要なページ数をご使用ください。

対象を Docomomo Japan が選定した国内に残る公共または公共的な建築物に限定し、以下を具体的な研究内容の経過を記す。

### 1. 広域詳細配置図と広域アイソメ図の作成とアーカイブ化

配置図をもとにした広域アクソメ図を80件アーカイブ化を行ない、図面データを蓄積した。

### 2. 近代建築運動と配置構成

複数の建築家や設計集団のボリューム配置、オープンスペースの形成のパタン化を行なった。

### 3. 外部との関係を築く局所的な建築エレメント

それぞれの建築の保存・変更状況について整理し、持続的に存在する局所的指標を特定した。

### 4. 環境形成の持続性とアクティビティ

街や都市のにぎわいやコミュニティ維持・形成と関わることで持続性を持ちうる相関関係を示すいくつかのパタンを抽出した。

### 5. 配置の設計と利用の一元的環境更新手法

局所的指標に着目した分析を行った。

### 3. 研究の成果

(注) 必要なページ数をご使用ください。

研究計画のとおり、1.～5.のテーマの中で、前半に1.と3.をまとめるための作業を集中的に行い、後半に2. 4. 5.の成テーマを行なった。

#### 1. 広域詳細配置図と広域アイソメ図の作成とアーカイブ化

今回さらに80枚の近代建築の詳細な現況配置図面(Deep Site Plan)を作成した。すべてに広域のアイソメ図を加えた。詳細な現地調査を行い、図面化し、資料のアーカイブを作成することができた。

#### 2. 近代建築運動と配置構成

資料調査によって、調査対象建築物の図面資料と設計関係資料を入手し、具体的には、バッファととり方、ボリュームの分節、方の変遷、進化するかを分析した。

近代建築運動期における公共建築物の環境形成(環境調整)手法については明確な結論は出せなかった。

#### 3. 外部との関係を築く局所的な建築エレメント

それぞれの建築の保存・変更状況について整理した。周辺環境と関係を取りもち持続的に存在する局所的指標を建築エレメントを特定することができた。建築物の増改築、減築、補修の履歴を把握した。

#### 4. 環境形成の持続性とアクティビティ

これまでの自主研究・調査で不十分だった、外部空間の活用が、プライバシーやバッファに関するだけでなく、街や都市のにぎわいやコミュニティ維持・形成と関わることで持続性をもちうることを探った。パターンを示すことはできたが、明確な結論を出すことはできなかった。

#### 5. 配置の設計と利用の一元的環境更新手法

環境形成を促す特定の建築エレメントやボキャブラリー(局所的指標)に着目した分析と設計手法の研究を行い、その実践を日本建築学会技術報告集に投稿した。

### 4. 今後の課題

(注) 必要なページ数をご使用ください。

2.と4.のテーマにおいて建築ムーブメントとの明確な関係性を異なるアプローチで捉え直す必要がある。またアクティビティを捉える指標を明確にし、定点観測等の方法により、利用実態をさらに把握する必要がある、さらに時間をかけるテーマとして今後取り組む課題として取り上げる。一方、1.のアーカイブ化は住人に行えたため、これを基礎とした次の分析が可能であり、その展開を目指すつもりでいる。